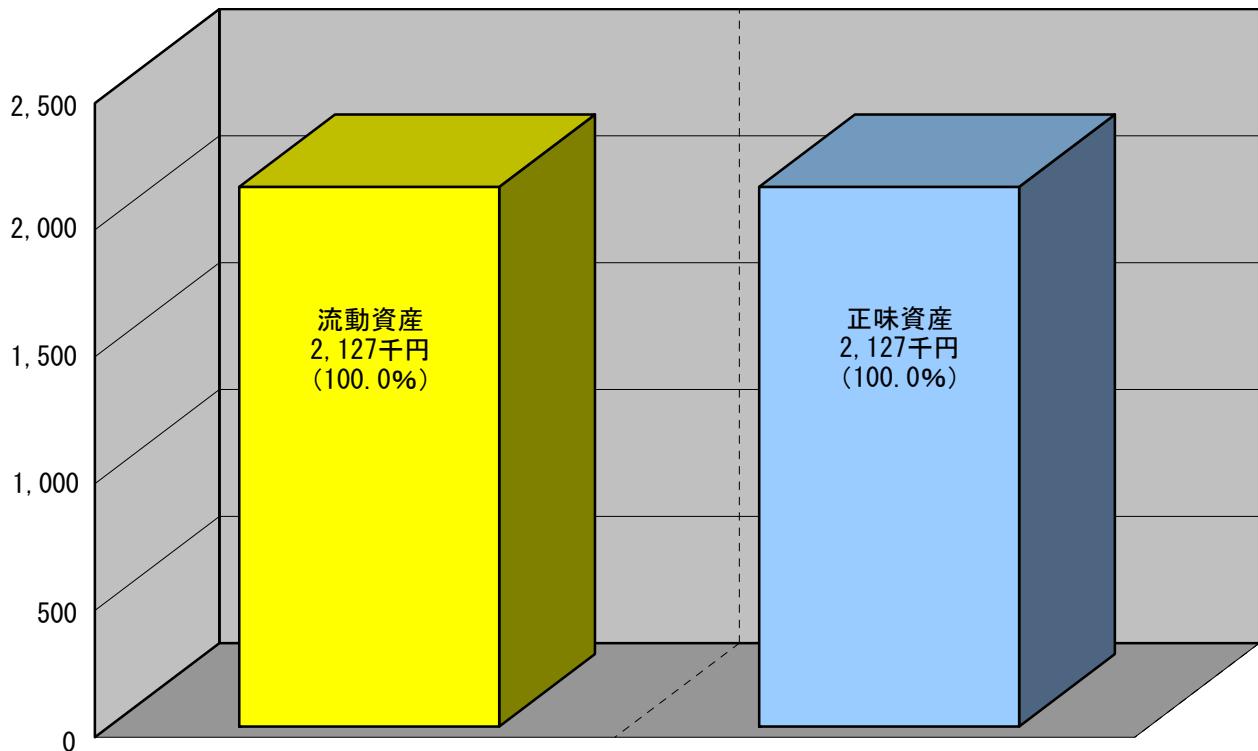


【平成18年度末バランスシートのグラフ】



(単位：千円)

借方 (資産)

貸方 (負債＋正味資産)

【解説】

栃木県後期高齢者医療広域連合が持っている資産の合計は2,127千円で、内訳は土地や建物などの「有形固定資産」が0円、出資金や基金などの「投資等」が0円、財政調整基金や減債基金、現金、広域連合の債権（未収金）などの「流動資産」が2,127千円となっています。

資産の全てが、「流動資産」で占められており、その資産形成における資金調達については、これまでの世代による負担である「正味資産」によるものが100.0%であり、将来の世代の負担による「負債」は0.0%となっています。

【資産の状況】

1. 有形固定資産

平成18年度は、土地の購入や建物の建設を行わなかったため、「有形固定資産」は0円です。

2. 投資等

平成18年度は、投資や出資及び、特定目的基金の積立などを行わなかったため、「投資等」は0円です。

3. 流動資産

平成18年度の広域連合の決算は、歳入は14,176千円であり、歳出は12,049千円です。よって、剰余金（歳入－歳出で余ったお金）は、2,127千円であり、これが「流動資産」となります。

【負債の状況】

借入金の残高や、債務負担行為による後年度の支出がないため、「固定負債」と「流動負債」は0円です。

【正味資産の状況】

「正味資産」は、これまでの資産の形成に調達された資金のうち、将来の負担が必要ないものを示しています。

その内訳は、国と県からの補助金が0円であり、一般財源等（市町分賦金など）が2,127千円です。